

# 市長就任ごあいさつ

留萌市長 長 沼 憲 彦



よこがお

・市内千鳥町四丁目 五十九歳  
福島県河沼群河東町出身  
自治大学校修了  
昭和三十一年北海道庁職員となり五十八年留萌支庁経済部長、道庁農務部作物園芸課長、農政課長、商工労働観光部企業立地推進室長、商工労働観光部次長などを経て、平成三年留萌支庁長を勤める。五年北海道家畜改良事業団専務理事を退任する。

## 未来に希望を持ち「住んで良かった」と思えるマチづくり

このたびの市長選挙におきまして、多くの市民の皆さんの暖かい御支援を頂き市長に就任いたしました。

私に課せられた責務の重大さを考えますとき、誠にも身の引き締まる思いをいたしております。

五十嵐前市長さんには二期八年間にわたり大変厳しい環境の中を留萌市発展のため御尽力頂きましたことを市民の皆さんとともに心から感謝申し上げます。

今日まで、多くの先人が血と汗で築いてこられた留萌のまちを、さらに豊かで活力のある「住んでよかった」と思えるまちづくりに努めるとともに、五十嵐市政の基本理念でありました「市政の主人公は市民である」という民主市政の原則を大切にしながら、市民との対話を深め、青年の柔軟

な発想と行動力を発揮していただく場と機会の拡大を図りたいと思います。

今日の地方自治体を取り巻く経済、社会情勢はご承知のとおり、誠に厳しい状況下にあります。

特に、昨年の国政の大変革をはじめ、農畜産物の貿易自由化を中心としたガット・ウルグアイラウンド交渉の結着は、農業経営に深刻な打撃を与えております。

また、長引く景気の低迷は、公共投資など国や道の財政に依存する度合いの大きい本市にとっても、憂慮すべき事態と言わなければなりません。しかしながら、市政が後退することは、許されません。

今、最も大切なことは、市民一人ひとりが留萌の未来に希望を持ち力を一つにして、新しいまちづくりに前進することではないでしょうか。

嬉しいことに、今日、留萌のまち全体において大胆に新しい時代へ挑戦しよう

という気風が生まれ、そして育ちつつあることが、肌で感じられることだと思います。

私は、第二の古里である留萌の先頭にたつて、留萌丸の誤りのない進路を拓くため、渾身の努力を傾けて参ります。

私は、このため、今後の市政運営に当たって、次の五点の柱を基本政策に据え、その実現にあたる決意でございます。

### 第一点は、「都市機能の充実」でございます。

留萌市は、北海道新長期総合計画において、道北の準中核都市として位置づけられております。

留萌港の整備による流通機能の充実、道北経済圏の発展や、環日本海時代に備えるために不可欠であり、さらには、中核都市としての役割を果たすため、流通、医療、教育等の利便性の高い都市機能の充実に努めます。

また、国際化の時代に向

かって、それらにふさわしい人材の育成を図るとともに、経済、文化などの幅広い国際交流を通じて、相互の社会的、経済的な高揚に結びつけることを目指したいと思っております。

### 第二点目は、「たくましい地場産業の育成」でございます。

幸いにして、留萌市には優れた技術を持った水産加工業が根づいています。

これらを生かし、産、学、官や異業種との交流を深めながら、新製品の開発や販路の拡大を図りたいと思っております。

また、農業、漁業などの第一次産業は、独特の歴史をもちながら、現在、大変厳しい環境におかれています。意欲のある後継者を中心とする、より収益性の高い一次産業の創出への努力を積極的に支援して参ります。

留萌市が、今ほど大きな転換期にさしかかっている時はないように思えてなり

ません。

とりわけ、若い経営者の方々が企業家精神に溢れた姿で、懸命に新しいマチづくりに取り組まれているのを拝見いたしますと、留萌の未来にも大変明るいものを感じますし、今後、このような動きを一層促進して参る考えであります。

### 第三点目は、「快適な都市環境の整備」でございます。

魅力ある商店づくりや、下水道、公園などの計画的な整備、景観の保全など、市民が快適な日常生活を過ごす都市環境の充実を目指したいと思っております。

特に、管内の中核都市として、留萌の特徴を生かした魅力ある商店街の形成は購買力の流失を防ぐとともに、より広域的な需要を増すという積極的な視点が必ずあり、そのためには創造的な企業感覚によって消費者ニーズの把握に努め購買意欲を高めるための条件整備を進めなければなら

いと考えます。

また、下水道をはじめとする生活環境の整備は、そのまちの文化レベルを計る尺度とまでいわれ、都市としての基本的な条件であると考えており、一層の促進を図って参ります。

私は、海と山の自然に恵まれた条件を十分に生かした四季を通じた親子のふれあいの場づくりを従来の公園等の整備条件を生かしながら、「留萌のまちらしさ」を創造して参りたいと思っております。

### 第四点目は、「やさしい心が通いあう地域づくり」でございます。

さまざまな文化、スポーツ活動等による市民の輪を広げ、さらに在宅福祉サービスの充実、高齢者や身体の不自由な方々にぬくもりが伝わる地域づくりを進めたいと思っております。

特に、生きいきとした人生を送ることのできる社会信頼、安心のある地域づくりは、そこに住む人々の気

風が大事な要素となります。

幸いにして、留萌は人情が厚いまちといわれます。

私も過去数年間の勤務でこのまちの暖かい人情に触れながら暮らした経験がありますが、このような市民の気風を、高齢者や、身体に障害を持たれる方々と健康者との連携の輪の拡大、お年寄りや若者とのふれあいの場づくり、さらには、ボランティア意識の高揚をはじめ、住民参加のコミュニケーション福祉の充実につなげて行きたいと思っております。

### 第五点目は、「確実な都市経営」でございます。

脆弱な財政基盤を抱えている本市において、行政需要が多様化し、増大しつつある一方、財政の健全化にも留意しなければならぬという、極めて厳しい行財政運営を迫られております。

この様な状況の中では、事業の重要性、或いは緊急度合いなどを十分勘案しながら、厳しく事業の選択をせざるを得ないものと考え

ており、限られた財源の効率的な運用に最大限の努力を払って参ります。

また、行政の執行体制の簡素化、効率化の問題は、国の行政改革推進審議会でも論議されましたとおり、国地方を問わず不断の検討、見直しを行わなければならない重要課題であります。

人材を育て、組織の活性化を図りながら、常にコスト意識をもった効率的な行政を進めるため、関係する皆さんとともに努力して参りたいと存じます。

以上、私の基本的な政策について申し上げますが、市民の皆さんとともに、一歩一歩着実にその実現に努力していく決意であります。

さらに、公正で信頼される市政、柔軟な発想を自由に交流し合える市政のために職員と一丸になって取り組んで参りたいと思っております。

どうか、市民の皆さんの特段のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。